

豊田市民芸館だより



碧釉貼文扁壺 河井寛次郎 昭和40年頃 25.4×26.0×20.8cm
河井寛次郎記念館所蔵

目次

- ・「河井寛次郎展 -寛次郎の魅力は何ですか-」
所蔵作品紹介…………… 2.3 頁
- ・開館40周年記念特別展「沖縄の美」を終えて…………… 4.5 頁
- ・民芸の森から…………… 6 頁
- ・令和6年度展覧会のご案内…………… 7 頁
- ・民芸館からのお知らせ…………… 8 頁

第36号

「河井寛次郎展 -寛次郎の魅力は何ですか-」所蔵作品介绍

現在開催中の「河井寛次郎展 -寛次郎の魅力は何ですか-」では、京都の河井寛次郎記念館と個人の所蔵作品に加え、当館所蔵の作品4点もあわせて展覧しています。今回は当館所蔵の河井寛次郎作品を箱書とともにご紹介いたします。

・青華^{せい か}六方花瓶 1922（大正11）年頃・32歳頃 22.8×10.0cm

青華とは、呉洲^{ごす}（呉須）で模様を描いて透明釉を掛けて青く発色させる技法のことで、日本では染付といます。側面中央には宝珠を持った3本爪の龍、その上下に兎のような動物の貼文が施されている面が3面あり、この面を含むすべてに青華の絵付けがあります。貼文以外の面には、中央に花唐草、上下に鳳凰が描かれ、この鳳凰の絵の上には「福如海 寿比山」の文字が白抜きで表されています。この言葉は福祿を祝う中国の言葉「福如東海 寿比南山」に由来するもののでしょうか。花唐草や鳳凰の模様は、素地に線を彫った上で絵付けされており、濃淡による表現の工夫が成されています。

箱書は、蓋の表に「青華六方花瓶」、裏に「鐘溪窯^{しょうけいよう}」の墨書と白文方印「河井寛印」があります。また、作品の高台内には「鐘溪窯」の印銘があります。



・鉄釉竹絵喜字鉢 1935（昭和10）年頃・45歳頃 46.0×10.0cm

喜寿の祝いの品として制作されたもので、「喜」字とその上下に竹が描かれています。葉が大きく目立つので笹絵といった方が良いでしょう。箱書に「竹喜鉢」とあるため、本展では竹絵として紹介しました。竹は冬でも青々とし古くから神聖視された縁起の良い植物で、みずみずしい青瓷^{せいじ}の色がこの竹絵をより際立たせています。絵や文字は筒描によるもので、河井が昭和10年頃から取り入れた技法です。また、写真には写っていませんが、鉢の裏面は高台内と高台から7cm程まで柿釉が施された掛分となっています。

箱書は、蓋裏に「竹喜鉢 河井寛」の墨書と朱文方印「河井寛」があります。



・白釉魚文喰籠^{じきろう} 1951（昭和26）年頃・61歳頃 16.9×27.2cm

河井は昭和26年頃から、鉄・辰砂^{しんしゃ}・クロムによる、手や魚や鳥をモチーフにした喰籠（食べ物を入れる容器）などを制作しました。本作は鉄の黒さや辰砂のピンク、クロムの深緑の色が際立った作品で、魚がモチーフとなっています。花のような、七宝のような美しい文様をまとい、深緑色の飛び出た目や、口を窄めて啄む表情が模様として楽しい作品です。

箱書は、蓋裏に「魚食籠 昭和二十六年製 寛」の墨書と白文方印「河井寛印」があります。



・黒釉筒描扁壺^{へんこ} 1953（昭和28）年頃・63歳頃 26.3×28.0×14.8cm

河井を代表する技法の一つである筒描で絵の外枠を描き、その中に複数の釉薬を施した筒描釉彩による作品です。花卉は辰砂と柿釉、葉はクロムで表現し、形は非対称で自由な作風です。河井は昭和24年頃から、日用に即した形にとられない自由な造詣へと作風を一転し、不定形の造詣に取り組み始めました。また、本作では絵の表現に筒描技法を用いていますが、左ページの「鉄釉竹絵喜字鉢」にみられるように、文字までも筒描で描くことで表現の幅を広げました。

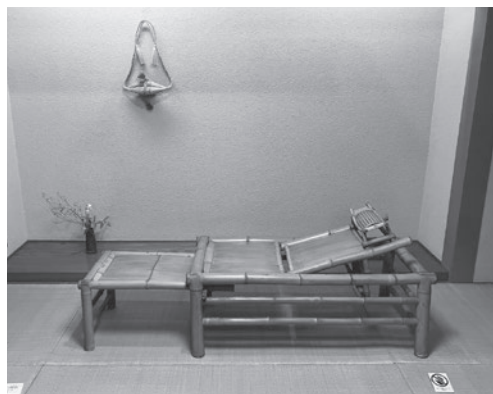
箱書は、蓋裏に「花扁壺 寛」の墨書と白文方印「河井寛印」があります。



河井寛次郎デザイン 竹製家具 1940（昭和15）年頃・50歳頃

河井は昭和15年頃から竹を素材とした家具を考案し、制作しました。京都嵯峨の竹が用いられ、実際の制作作業には日本竹製寝台製作所（京都）の台湾出身の職人があたりました。

当館の竹製家具は棟方志功旧蔵品で、椅子や机、マガジンラック、寝台があります。平成30年に開催した展覧会「棟方志功と柳宗悦」でお世話になった、棟方志功研究家で、棟方の孫にあたる石井頼子氏よりご寄贈いただきました。河井を師匠と仰いだ棟方との、両者が偲ばれる作品です。 (岩間千秋)



関連展示として、
第3民芸館で紹介

開館40周年記念特別展「沖縄の美」を終えて

豊田市民芸館では開館40周年を記念する特別展の第一弾として、「沖縄の美」展を開催しました。当館が開館して以来、初めて本格的に“沖縄の工芸”を紹介する機会となった本展には、東京・駒場の日本民藝館が誇る日本屈指の琉球工芸のコレクションの中から、国宝級の名品を含む約150点をご出展いただきました。あらためて貴重な資料をご貸与くださいました日本民藝館に深くお礼を申し上げたいと思います。

1938年、民藝運動の主導者柳宗悦は初めて沖縄を訪れました。「宝の山に入ったようだ」と感動した柳は、工芸品ばかりではなく、建築や人、暮らしぶりに至るまで、すべてが美しい島々に魅了されます。以来、来島を重ね、調査・蒐集を行い、日本民藝館での展覧会や機関誌『工藝』を通じてその魅力を紹介していきます。今回の展覧会には柳と民藝運動の同人たちが、戦前の4回にわたる沖縄訪問で蒐集した染織品や陶器、漆器などが数多く含まれていました。結果として戦禍を逃れることができたそれらは、琉球王国が育んだ美の姿をいまに伝える重要な文化財であり、かけがいのない日本の宝といえるものです。一部の作品はガラスケースなしでの展示をご許可いただくことができたため、繊細な手仕事を間近に眺めることができ、作り手の息づかいさえも感じとることができました。

沖縄の工芸の大きな特徴といえば、型紙を使って文様を染める華やかな紅型の衣裳や芭蕉や芋麻など地域ごとの特色ある材料で織られた織物、技法も形態も多様な陶器や漆器でしょう。今でも思い出すのは資料の展示設営の時のこと。資料の陳列は陶器→漆器→染織の順に進めていったのですが、紅型の衣裳や色鮮やかな緋の織物が展示されていく段階になると、これまで無彩色で無機質な展示室が一気に華やぎ、空間に花が



展示室2 展示風景

咲いたかのような広がりや奥行きが生まれていく様子を目撃することになったのです。展示空間にこれほどの変化を起こしてしまう琉球の染物や織物が持つ力にはあらためて驚かされました。

本展では、第一民芸館に琉球王国時代の工芸品を展示し、第二民芸館には久米島や八重山など離島の染織、戦後沖縄の工芸復興と継承に尽力した方々の作品を中心に紹介しました。日本民藝館の古屋学芸員にもさまざまなご指導をいただきながら、資料の歴史的背景、色やかたち、模様などを考慮しつつ資料の配置や構成を整えていくことで、周到な美しい展示空間が完成しました。「工芸の天国の様な所」と柳が絶賛した沖縄。今回の展示では、そうしたこの世の楽園のような空気感を少しでも感じていただけたのではないのでしょうか。

会場を訪れたお客様からはさまざまなお声をいただきました。質問で最も多かったのは、琉球王国時代の衣裳の素材のひとつとしてキャプションに記されていた“桐板とんぴん”とは何か？というものでした。確かに桐板とは聞きなれない素材です。桐板は、琉球王府があった那覇市首里で、士族の男女の夏の礼服として重宝された貴重な布のこと。光沢がある白い生地で空気のように軽く、庶民には手に入れることができない憧れの織物でした。ただその布は沖縄戦でほとんどが焼失してしまい、これまでも多くの調査研究が行われたにもかかわらず、原材料が何かを特定できずに長い間ミステリアスなものとして扱われてきたのです。しかし近年の調査研究により、桐板とは、中国福建省の芋麻糸を使って織られた布であろうということが徐々に明らかになってきました。未だに原料の特定に異論が出ているとはいえ、今後はその製作技法の実験と研究がさ



展示室1 展示風景

らに進み、現代版の桐板の繊維で織られた衣裳が再現される日が来ることでしょう。

会期中には多彩な関連事業も開催しました。日本民藝館常務理事の杉山享司氏による記念講演会では、柳宗悦と沖縄との関わりについてスライド資料を用いて詳しくお話しいただきました。またあわせて柳らが製作した沖縄の日常風景と工芸品の本土への紹介を目的とした貴重なフィルム映像『琉球の民芸』（1939年）も上映していただきました。戦前沖縄での芭蕉の糸積みの様子や窯場でのろくろ成形の様子などがモノクロ映像で記録されたもので、戦前の沖縄へタイムスリップしたような気分を味わうことができました。さらに今回は展覧会のみならず、沖縄の伝統芸能を紹介するプログラムも開催。琉球古典音楽野村流保存会師範の光永一仁氏とバイオリン奏者の林正実氏による演奏とともに、琉球國祭り太鼓東海地区の皆さんに琉球獅子舞とエイサーの演舞をしていただきました。第三民芸館前の芝生広場で上演されたこのイベントには、200名をこえる観覧者が集まり、大いに盛り上がりました。

豊田市民芸館では、今回の「沖縄の美」展に続き



杉山享司氏による記念講演会「柳宗悦と沖縄」の様子



琉球獅子舞・エイサー演舞の様子

て、次年度にはアイヌ民族の工芸品を紹介する展覧会を計画しています。こうした展覧を通じて、かつての帝国日本の「周縁」に生きていた人々の芸術・文化に関心を向け、それらが宿す美への感動（共感）を通して、民族固有の文化の多様性とその重要性について再考する機会としたいと考えています。どうぞご期待ください。（都筑正敏）

開館40周年にあわせて施設の修繕を実施しました。

開館40周年を迎えた令和5年度（2023年度）、豊田市民芸館では以前より劣化や退色が指摘されていた第一民芸館と第二民芸館内の壁クロスや床カーペットの張り替えを行いました。また、民芸館で複数台所有する覗き型展示ケースの内装を“葛布”に張り替えました。“葛布”とは植物葛の繊維で織り上げた布で、遠州掛川の特産物です。この葛布は、柳宗悦が著書『手仕事の日本』（昭和23年発行）の中で、「絹になく麻になく木綿にもまたない味わいがあります。その光沢は葛布のみが持つ特権ともいえましょう」と褒め称え、日本民藝館の壁面や展示ケースの内装に進んで用いたことでも知られています。開館40周年を機にこうしたいくつかの内装を修繕したことによって、展示環境をより良い状態に整備することができました。民芸館を訪れたお客様からは「展示室が明るくなった」「作品が見やすくなった」と好評をいただいております。

もうひとつ、民芸館周辺の案内看板や庭園のサイン看板をリニューアルしました。いずれも統一的なサイン・デザインで一新し、館を訪れる方に施設をわかりやすく案内し、庭園内の回遊性を高めるために新しい屋外サインを設置しました。シンプルで美しく機能的なサイン看板によって、豊田市民芸館にシャープな感覚が加わりました。（都筑正敏）



葛布の張り替えの様子



リニューアルした案内看板



リニューアルした庭園のサイン看板

2024年度 前期 イベント・体験講座予定

○森の本多コレクション展「本多静雄の眼」

4月4日（木）～6月16日（日）

豊田市名誉市民で実業家、日本有数の古陶磁器研究家として知られる故・本多静雄が収集し、豊田市に寄贈した資料（本多コレクション）の中から国内外の民芸品を中心に紹介します。



○初夏、森の手ざわり

5月26日（日）10時～15時

今年もNPO法人民芸の森倶楽部と共働で開催を予定しています。

舞台での演奏や展示、出店などを行い、地域住民の交流や憩いの場を創出します。



○森のアート展Vol.21 未定（公募選出者による展示）

7月上旬～9月上旬（予定）

手仕事の素晴らしさを感じ、新たな発見や交流、創造の場となるよう芸術家等の作品を森の屋内外に展示する「森のアート展」の企画、展示者を公募により選定します。



○体験講座「ガラス風鈴に貼り絵をしよう」

7月中旬～8月下旬 ※なくなり次第終了

透明なガラス風鈴に小原和紙の色紙を使って絵付けをします。

世界で一つだけの風鈴を作成しませんか。

2023年度 後期 イベントのふりかえり

○森のアート展Vol.19「山田和俊 寄贈記念展」 10月7日（土）～12月17日（日）

豊田市在住の陶芸家・山田和俊氏（1933年ー）は、豊田工芸協会を設立し、国内外で数多くの展覧会を開催するなど、工芸の発展と文化振興に力を注いでこられました。今回のアート展は、山田氏が令和4年度に15点の作品を豊田市民芸館に寄贈されたことを記念して開催しました。

また関連事業として、記念講演会「山田和俊さんの陶芸の道」を豊田工芸協会顧問である環境副大臣 八木哲也氏を講師にお招きして開催し、山田氏や本多静雄との関係や豊田の民芸、これからの民芸館について語っていただきました。



○民芸の森 観月会 10月28日（土）来場者：約600人

昨年に引き続きNPO法人民芸の森倶楽部へ運営委託をして行いました。名鉄学園杜若高等学校や近隣の市民団体などによる舞台演奏、竹行灯、絞り染めの展示、参加型の俳句コーナーや森の市、お抹茶コーナーに加え、五平餅などを始めとした飲食店の出店を行いました。



○勘八峡紅葉ウォーキング 11月18日（土）

今年は「勘八峡・秋色の絶景ポイントと史跡をめぐる」をテーマに民芸の森を発着点として越戸ダムをはじめとした勘八峡の各施設を巡る約4Kmのコースを設定。約110名の方が参加されました。

平戸橋1区、名鉄学園杜若高等学校、平戸橋いこいの広場、中部電力愛知水力センターなど、地域の皆さんの協力をいただいて実施しました。



令和6年度(4月~令和7年3月) 展覧会のご案内 (観覧料 有料)

「美しき手仕事 一新収蔵品を中心に」 第1・2民芸館

令和6年4月9日(火)~6月30日(日)

本展では、「美しき手仕事」をテーマに、近年収集した作品や寄贈を受けた資料を中心に紹介します。第1民芸館では、日本民藝館展の優品、絞り染めなどの染織品、手漉き和紙やざぜちなどを展示。第2民芸館では、故高松静男氏が収集したアイヌの工芸品や瀬戸の石皿、そば猪口など、300点を超える資料の受贈を記念して、多数の優品が含まれた高松コレクションの中から厳選した作品を紹介します。



胡桃手提げ籠・山葡萄手提げ籠
上村健三

「或る賞鑑家の眼 一大久保裕司の蒐集品」 第1・2民芸館

7月13日(土)~9月23日(月祝)

青山二郎、安東次男、池田三四郎、白洲正子、秦秀雄、藤田青花、三橋国民、棟方志功、料治熊太等、古美術・骨董界の先達と実際に相見えた数少ない賞鑑家、故大久保裕司氏。その蒐集品は日本の古代から近世までの陶磁器、硝子、木工、金工、民間仏や小道具、朝鮮時代の諸工芸品から西洋アンティークまで幅広い内容で形成されています。本展では大久保氏の元に集まり、氏が愛でていたものを紹介します。



蚊遣り豚

「アイヌの美しき手仕事」(日本民藝館巡回展) 第1・2民芸館

10月12日(土)~12月15日(日)

日本民藝館創設者の柳宗悦(1889-1961)は、アイヌ民族の工芸文化に早くから着目し、1941年には美術館で最初のアイヌ工芸展となる「アイヌ工芸文化展」を日本民藝館にて開催しました。その際、染色家・芹沢銈介(1895-1984)は、同展の作品選品や展示を任されており、自身もアイヌの手仕事を高く評価し蒐集しました。本展では柳と芹沢の眼によるアイヌ工芸の蒐集品を、日本民藝館と静岡市立芹沢銈介美術館の所蔵品から紹介します。また、当館に近年寄贈された高松コレクションによるアイヌの工芸品もあわせて展覧します。



木綿地切伏刺繍衣裳 19C
日本民藝館蔵

(仮)「民窯 一食のうつわ」 第1・2民芸館

令和7年1月11日(土)~4月6日(日)

「民窯(みんよう)」とは、一般民衆が日々の生活のなかで使う器や道具などを焼く窯、またはそのやきもの自体を指します。民窯という言葉は「民藝」という言葉とともに昭和初期から広く使われるようになりました。今回の展示では、愛知県の瀬戸焼や常滑焼はもちろん、北は岩手県の久慈焼、南は沖縄県の壺屋焼まで、職人の手仕事による食にまつわるやきものを紹介します。



瀬戸本業窯のやきもの

民芸館ギャラリー(第3民芸館)のご案内(観覧料 無料)

令和6年5月19日(日)まで	……………	令和5年度民芸館講座作品展
6月1日(土)~	9月8日(日)	…… 公募期間
9月14日(土)~	9月29日(日)	…… 第9回 伝承拳母木綿展
10月12日(土)~	12月15日(日)	…… アイヌの生活 高松コレクションを中心に
12月21日(土)~	令和7年2月2日(日)	…… 郷土玩具展 干支と巳
2月18日(火)~	5月18日(日)	…… 令和6年度民芸館講座作品展

この展示案内は、年間計画のため今後日程・内容等が変更となることがあります。

民芸館からのお知らせ

① 平戸橋桜まつり2024を開催

4月6日(土) 雨天決行 午前10時～午後3時

◆民芸館を含む平戸橋公園会場

野外ステージ、食品バザー、クラフトショップ、体験講座、
写生大会、スタンプラリー等

◆民芸の森会場

森の市(食品販売やクラフトショップ)
猿投台リトルハーモニーによる合唱 等
絞り染めの展示や体験コーナー



裂織体験講座の様子

② 新緑ウィーク 絞り染めこいのぼりの展示と3館合同スタンプラリー

新緑ウィーク期間中【4/20(土)～5/6(月)】に、豊田市民芸館第3民芸館前と民芸の森で、絞り染めこいのぼりを展示します。また、この期間には3館合同スタンプラリー〔民芸館・民芸の森・こいのぼりの広場〕も開催。平戸橋一帯の新緑と初夏のさわやかな風の中でのウォーキングをお楽しみください。

スタンプ設置場所：民芸館(第3民芸館)・民芸の森(田舎家)・平戸橋こいのぼりの広場(受付)

時間：午前9時30分～午後4時30分 入館無料

③ 民芸館年間パスポートを販売します

気軽に何度でも民芸館へ足を運んでいただけるパスポートを令和6年4月2日より発行します。豊田市民芸館主催の展覧会を無料でご覧いただけるほか、パスポート提示で以下の施設において割引が受けられます。

販売価格：1枚(1名様)1,500円

※ご利用はパスポート裏面に署名したご本人に限ります。

有効期限：購入日から翌年の発行日の属する月の末日まで

申し込み：第3民芸館受付にて直接申し込み

◆割引対象施設一覧 ※他の割引との併用不可

100円割引対象(ご本人のみ有効)

- ・日本民藝館 入館料
- ・瀬戸・ものづくりと暮らしのミュージアム 瀬戸民藝館 入館料

その他の割引対象(ご本人のみ有効)

- ・豊田市美術館 常設展を除く展覧会観覧料が
- ・豊田市博物館 団体料金に割引されます。

※豊田市民芸館施設条例の制定により2024(令和6)年4月から施設名称を「豊田市民芸の森」から「豊田市本多記念民芸の森」に変更

お問い合わせ 豊田市民芸館

※両施設とも4月以降の開館時間は午前9時30分～午後5時

〒470-0331 愛知県豊田市平戸橋町波岩86-100

TEL 0565-45-4039 FAX 0565-46-2588

休館日 月曜日(祝日の場合は開館)

開館時間 午前9時～午後5時

入館料 無料(特別展は有料)

<https://www.mingeikan.toyota.aichi.jp/>

豊田市本多記念民芸の森

〒470-0331

豊田市平戸橋町石平60-1

TEL 0565-46-0001

